

山内昌也・西村綾乃リサイタル

琉球伝統芸能

「美の世界V」

— 琉球伝統菓子と共に

二〇一九年七月十四日(日)

琉球伝統菓子の会 / 午後一時十五分～二時(開場 / 一時)
美の世界V / 午後二時～三時

COREDO室町3 三階橋楽亭(東京日本橋)

助成 / (公財) 沖縄県立芸術大学芸術振興財団 平成31年度助成事業
共催 / (一社) 琉球伝統芸能デザイン研究室
協力 / 南の島のフィニッシングスクール 西大学院

沖縄がまだ「琉球」と呼ばれていた時代…

琉球王国は、中国や朝鮮、東南アジア諸国、そして薩摩藩を窓口とした日本などの中継貿易を通じて、富と繁栄の時代を築き上げていた。大交易時代の栄華を謳歌する中で、食欲にさまざまな異文化を吸収しながら、独自の美学と感性を以って世界に誇りうる王朝文化を育んだ。その文化を象徴するのが、伝統芸能である。

一四〇四年、中国と琉球は正式な国交を結び、以来琉球国王の代替わりごとに中国皇帝からの使者「冊封使サツボウシ」が琉球へ渡ってくるようになった。新国王の即位を認める書状と冠を携えてやってくる冊封使を歓待するために、琉球王府は芸能の振興に特に力を入れた。芸能振興のためだけに設立した役所、「踊奉行(ラドゥイブギョウ)」がその中心となり、演舞・演技・演奏、そして演出を担った。こうして発展したのが琉球古典舞踊や琉球古典音楽である。

古典舞踊は、長寿と子孫繁栄を願う「老人踊」、元服前の十五・六歳の少年が踊ることのできるの幸先を祝福する「若衆踊」、恋・愛をテーマに内面の情念を抑制された所作に表現する「女踊」、琉球空手を基本に大和芸能を取り入れた「二才踊」に分けることができる。

古典音楽も、それらの踊りに合わせて、時に緩やかに、時に歯切れよくテンポを変えながら、その芸術性を確立していった。昨今、沖縄民謡や沖縄ポップスが全国的なブームとなつて久しいが、それらの源流とも呼べるルーツが琉球古典音楽なのである。

今回の公演は、沖縄の気候風土に調和した「癒し」とも云われている沖縄の音楽や伝統芸能を、琉球古典舞踊(女踊)と、琉球古典音楽(歌三線)を中心としたプログラムにて提案する。

本来、複数の演者によるものがほとんどだが、今回はあえて、「奏者一人に舞い手一人」という、極限までその身を削ぎ落した編成で、琉球伝統芸能の美の真髄に迫る。

極限の編成であるからこそ描き出せる「美の世界」を通して、琉球伝統芸能の存在意義と、王朝時代より脈々と息づく美意識や感性の発露を見いだしていただきたい。



入場券 / 五、〇〇〇円(お菓子代含む)

オンライン販売 / <https://ryu-bi-world5.peatix.com/>



山内昌也・西村綾乃リサイタル
琉球伝統芸能

「美の世界V」

— 琉球伝統菓子と共に —

演目

- 一、琉球古典舞踊女踊『かせかけ』
かしかけ
- 二、琉球古典音楽独唱『作田節』(湛水流)
ついでてんぶし
- 三、琉球古典音楽独唱『ぢゃんな節』(湛水流)
ぢゃんなぶし
- 四、琉球古典舞踊女踊『天川』
あまかー

房指輪 琉球王朝時代、主に貴族の婚礼の儀で使用されていたといわれる。七房ひとつひとつのモチーフに、この指輪を身につける花嫁がずつと幸せであるようにという願いが込められている。
モチーフの意味
[魚] 食べ物に困らぬように
[葉] 着る物に困らぬように
[花] 彩り豊かな生活を送れるように
[扇] 末広がり、福。暮らしますます栄えるように
[鯛] 不老長寿であるように
[蝶] 天国の使者。来世までも永久に守られるように
[さくら] 子孫繁栄するように



山内昌也 (やまうちまさや) 歌三線 / Masaya Yamachi

沖縄県沖繩市出身。沖縄県立芸術大学卒業後、同大学院、琉球古典音楽専修修了。小学五年生より三線を琉球古典音楽野村流音楽協会・琉球古典音楽湛水流保存会師範島袋英治氏に師事。
琉球新報社主催琉球古典芸能コンクール新人奨励賞を中学三年生で受賞。その後優秀選賞を高校三年生、コンクール最高賞を大学三年次に受賞する。大学学生時代より、文化庁主催日本文化紹介事業で県内外、海外で演奏をしている。二〇〇七年NHK「名曲アルバム」に出演。東京フィルハーモニー交響楽団と共演している。近年は、琉球古典音楽の演奏表現空間研究と、現代曲の演奏を盛んに行っており、二〇一六年ベトナムで開催されたアジア作曲家連盟 (Asian Composers League-ACL) 音楽祭に出演している。
現在、沖縄県立芸術大学准教授。国立大学法人琉球大学非常勤講師。
琉球古典音楽野村流音楽協会師範。琉球古典音楽湛水流保存会師範。
山内昌也研究所主宰。(二社)琉球伝統芸能デザイン研究室代表理事。



西村綾乃 (にしむらあやの) 琉球舞踊 / Ayano Nishimura

沖縄県南城市佐敷出身。玉城流喜納喜利の会西村利江子に師事し、三歳に初舞台を踏む。沖縄県立芸術大学卒業後、同大学院、琉球舞踊組踊専修修了。
琉球新報社主催「琉球芸能コンクール 舞踊部門」を二〇〇四年に最高賞受賞。二〇〇八年に琉球舞踊教師免許習得。二〇一六年国立劇場おきなわ企画公演にて、二〇〇六年に脚本・演出・振付を手掛けた、創作組踊「玉露の妖精」(たまつゆぬし)を上演。女性実演家による華やかな構成演出が注目を浴びている。
沖縄県内外・海外の舞台で活動し、後継者育成する傍ら、他ジャンル(洋楽邦楽)との共演、アーティストの振り付けも手掛けている。
また、NHKBSプレミアム「美の壺」、県内企業CM、モデルとしても活動中。二〇一七年より、振付を手掛けている「琉球チムドン楽団」のゲストとして台湾、ロシア、北海道、東京、福岡などのライブイベントに出演。
玉城流喜納喜利の会師範。琉球舞踊保存会伝承者。
女流組踊研究会めばな会員。

二〇一九年七月十四日(日)
琉球伝統菓子の会 / 午後一時十五分〜二時(開場 / 一時)
美の世界V / 午後二時〜三時

COREDO室町3

三階橋楽亭(東京日本橋)

※会場は和室のため、お履き物を脱いでのご入場となりますので、予めご了承ください

入場券 / 五、〇〇〇円 (お菓子代含む)

問合せ / 〇九〇ー二三九六一四五八七(山内)

m.yamauchi1230@gmail.com

琉球伝統菓子について

料理人紹介

琉球国には百六十以上もの菓子の記録が残されていますが、中国をはじめ日本など、いろいろの文化を学びとり入れ、さらに気候風土に合わせて変化させてきました。

《水山吹》

琉球国王が中国皇帝の使いである冊封使を歓待する御冠船料理の点心の一つとして出されたものです。水山吹は江戸時代に日本で考案された菓子で宮中でも正月二日に天皇皇后両陛下に出されています。かるかん生地を梔子の実で黄色く染め真ん中に羊羹を挟んで三層にした菓子ですが、琉球では羊羹を挟まずかるかん生地を黄、赤、青の三色に色付けして仕上げています。

《丁字餅》

小豆あんや芋クズを加え丁字の香りをつけて蒸し上げた蒸し羊羹です。王朝時代の正宴や中城御殿（琉球王皇嗣）の正月料理に使われました。

中国では皇帝と接する家臣は丁字を口に含むことが礼儀とされました。家臣の吐く息で堂内が甘く和やかな空気に包まれたそうです。琉球王朝でも丁字の香りを高貴な香りとして珍重していました。

《曙らくがん》

落雁生地に琉球風の梅味噌を挟み三層にして板状に型抜きして仕上げ切り分けた菓子です。近年琉球菓子を作るお店でも見ることがなくなりましたが梅の塩気と酸味、落雁の甘味が合わさった爽やかな菓子です。

琉球伝統菓子

西大 八重子 (にしおおやえこ)

Yuko Nishio

那覇市出身、国立琉球大学農家政工学部家政学科卒業。スイスのフレイジングスクールの名門「ヴィラ・ピエールフー校」の特別コースにてプロトコール（国際儀礼）を修得後、沖縄県南城市知念に「フレイジングスクール西大学院」を開設する。生活の基本的な事柄の教育を通して次代を担う魅力ある女性を多数おくりだしている。

《免許・資格》

管理栄養士、調理師、茶道裏千家準教授、華道家元池坊教授、日本書道院師範

《著作》

「わが家の沖縄風茶懐石208選」「沖縄のおかず12か月」「沖縄野菜の本」「おいしいおばあが食べてきた沖縄の元氣料理」「春夏秋冬いつでも島野菜こはん」「沖縄食の大事典」(共著)「砂糖の文化史」(共著)

その他、雑誌等で料理や栄養、マナーについて執筆多数
現在、フレイジングスクール西大学院学院長。沖縄スーパードット協会理事長。沖縄美ら島財団琉球食文化研究所研究顧問。

